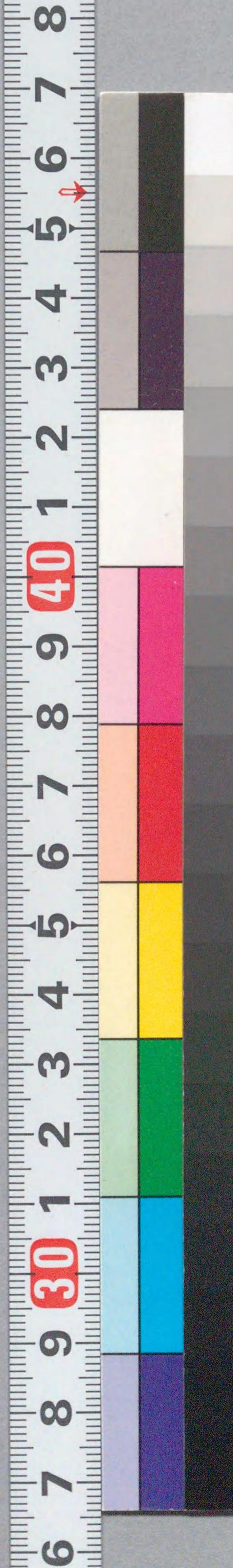




国立国会図書館

馬鹿村水犬傳 2巻 208-545



ガラス使用

馬鹿邨水犬傳

村

霍志菴
北尾政為

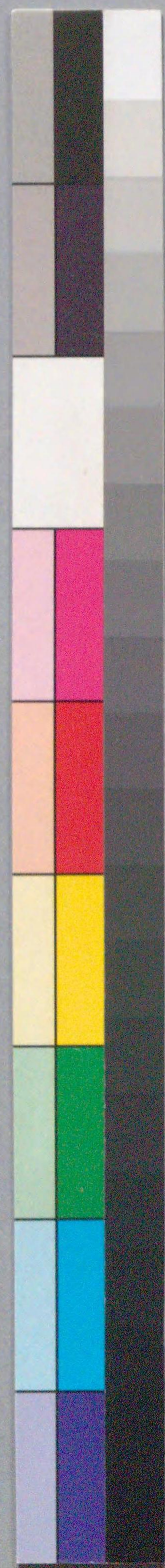
二冊



馬鹿邨



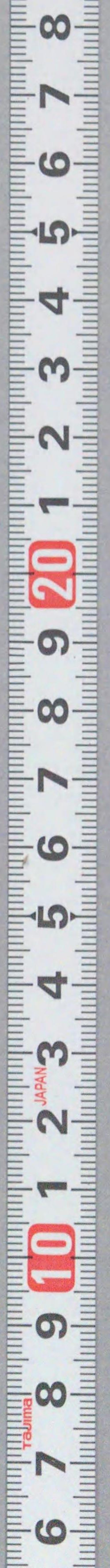
馬鹿村水犬伝 本丹波國彦山は彦之切（印）
 梅子木の二を海へ番と辭を授け 傳言を聞（印）
 後 簿小夜とて茶を將自ら寸砂馬をも存するの志あり
 願球の賽多し中平女及でます 虹智蓋を以て
 世子傳さしむる 彦村氏所思ふ方々の智恵因縁
 底をあらせありむの妻也 後 傳也 極のむく世の
 たりとらり 綴て 別馬鹿色水犬傳といふの事あり
 二也坊の雲 菊藝謹言

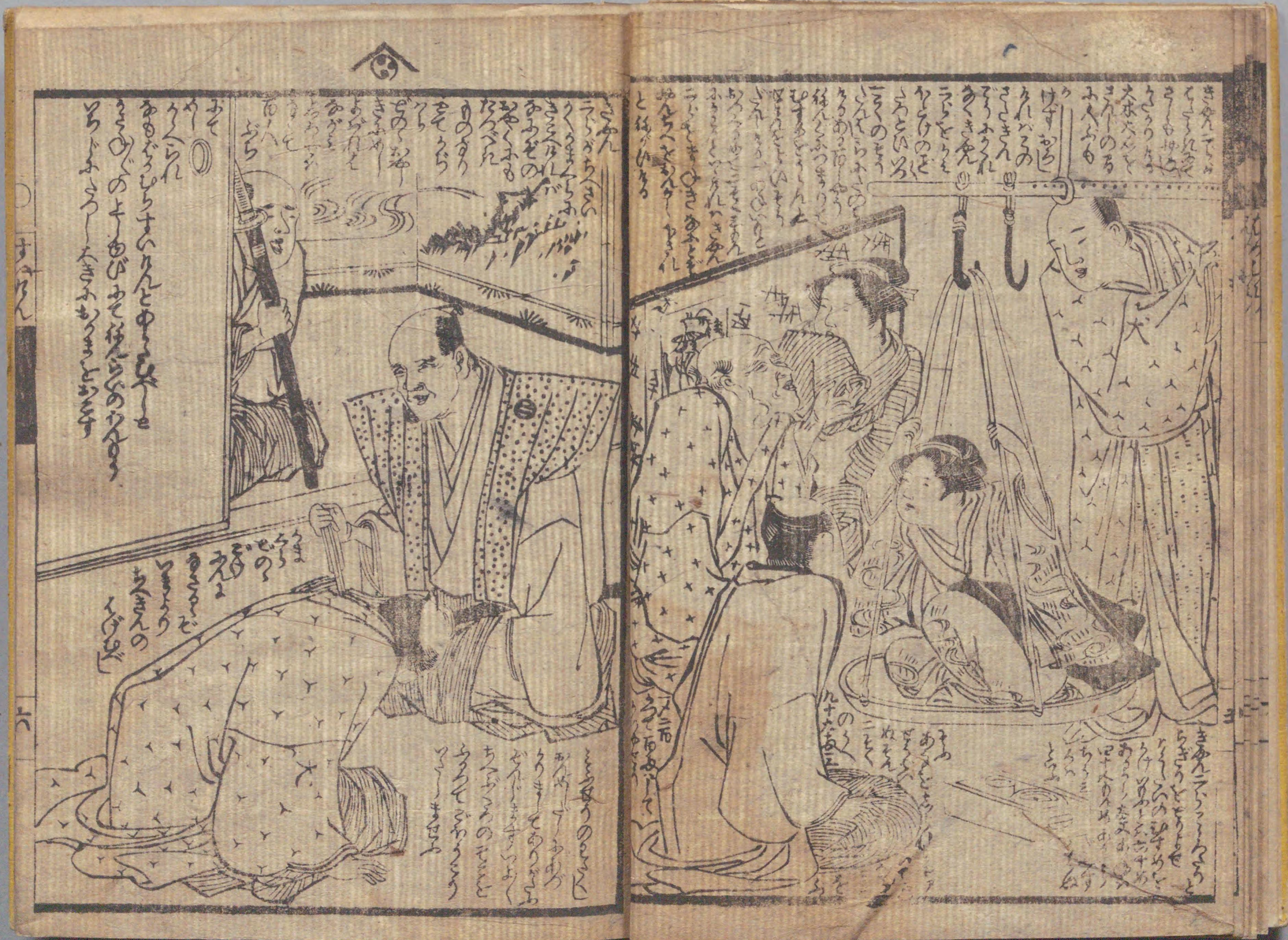




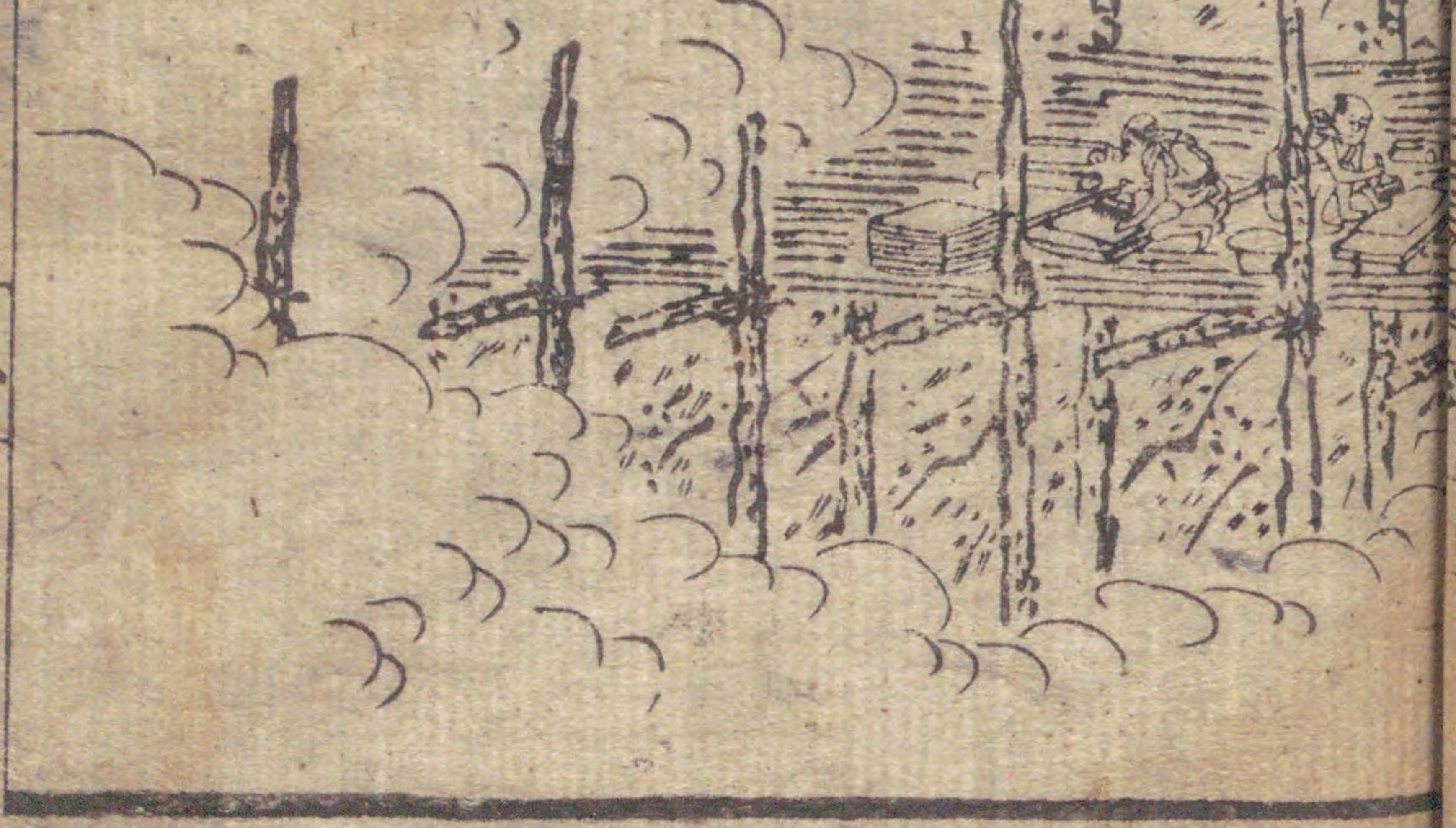






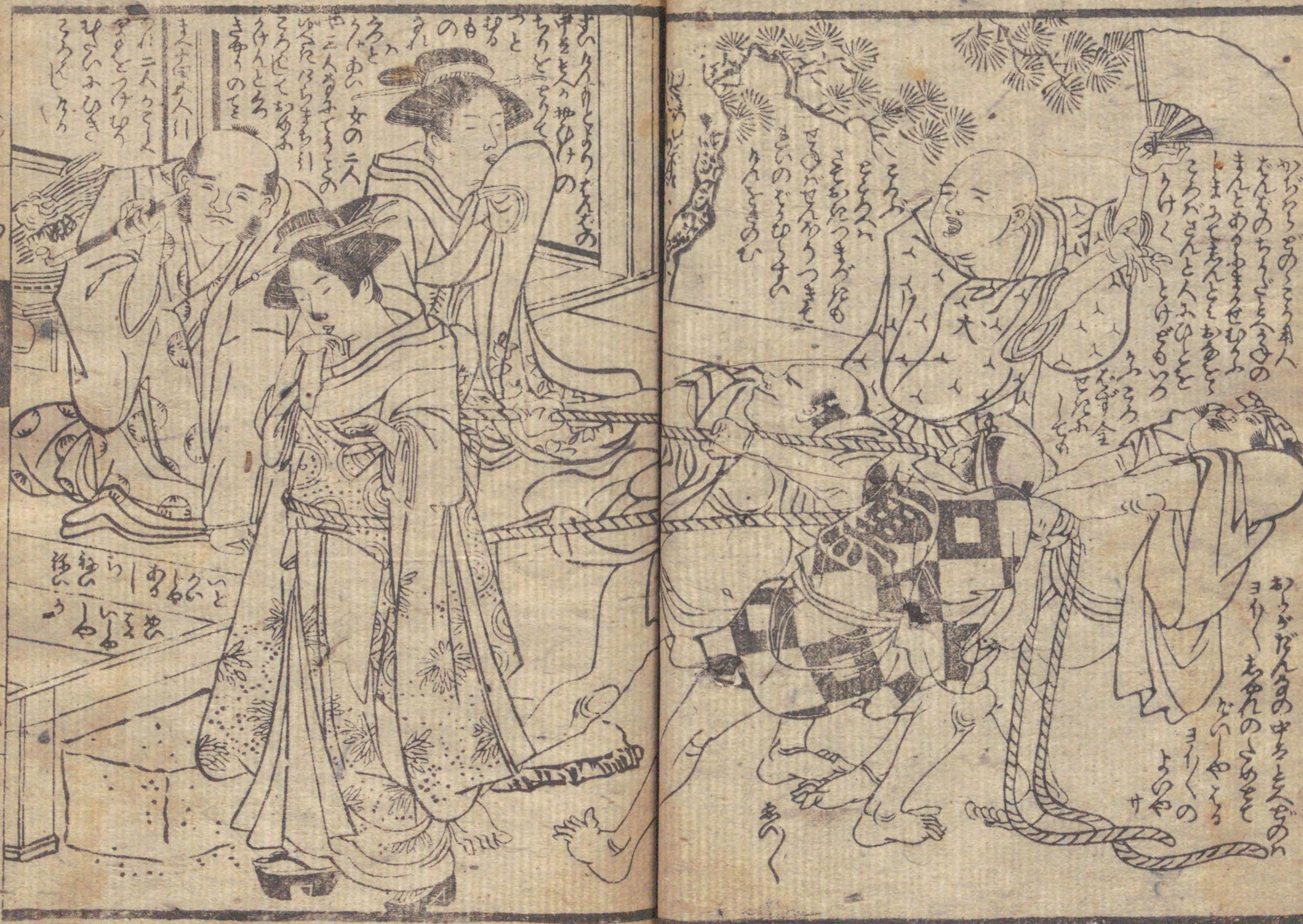


Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the upper portion of the left page. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the upper portion of the right page. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left.







新版目録

三ヶ通金持容乳
上中下

紙手本通人宛
上中下

馬鹿邨水大信
上下

昔万歳竹鳩彦
立無物

札真面投限

御免
一、富金百両
二、富金五十両
三、富金十両
四、富金五分

御富

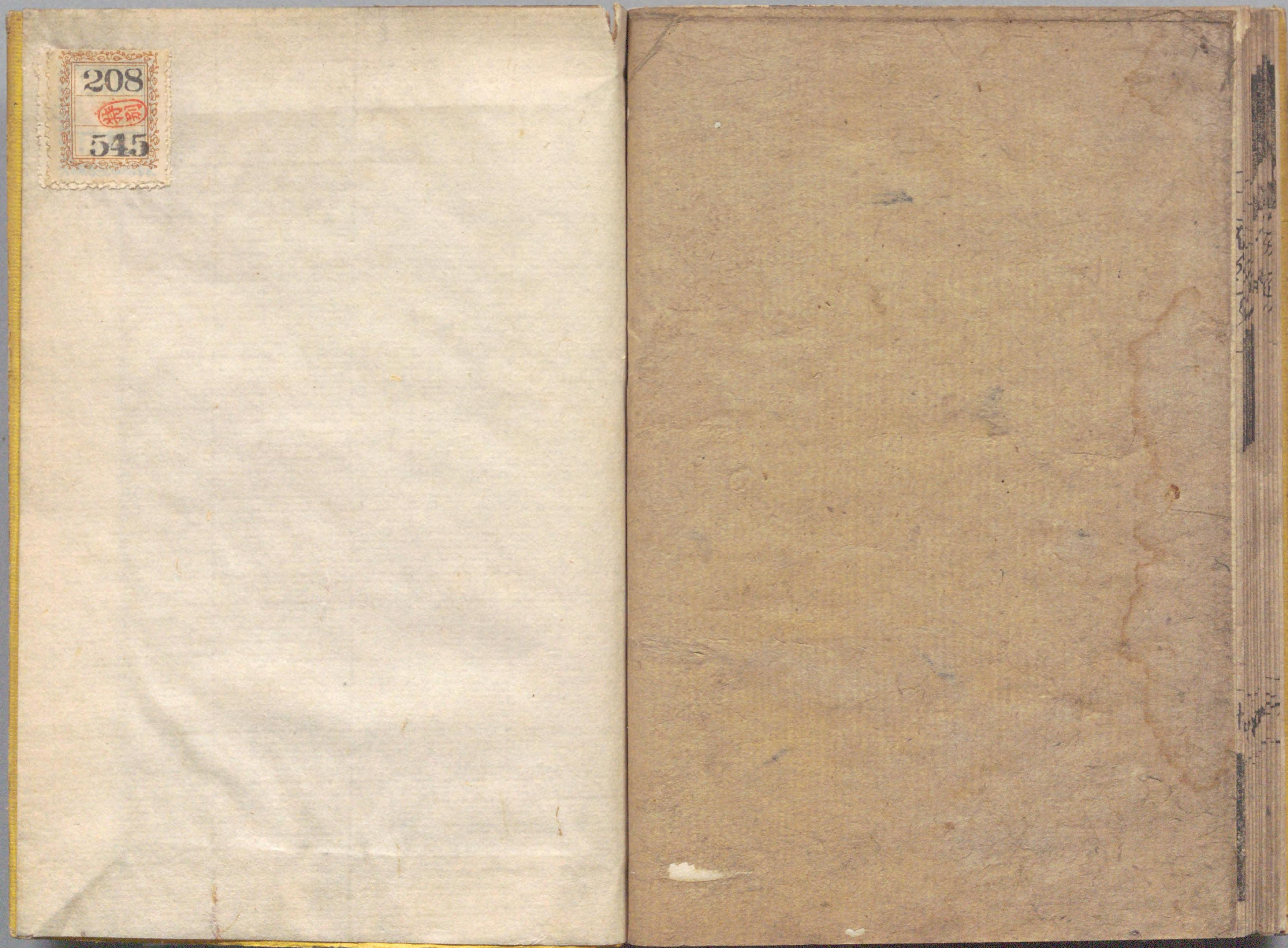
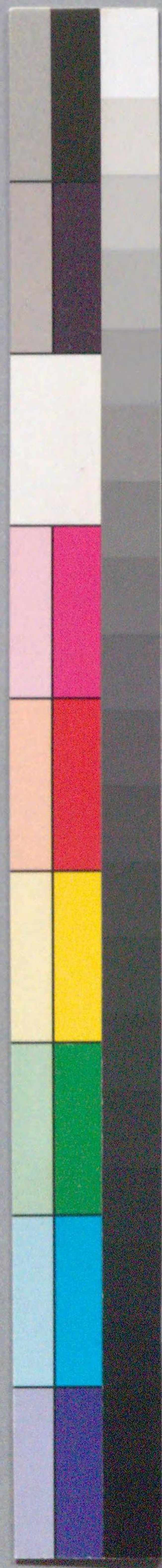
御免
二、富金五十両
三、富金十両
四、富金五分

月日 務富
御社

あんなにこうなるのなぞふのあつたを
そのゆゑさうなうらなともの
さうなうらなとものさうなうらな
とものさうなうらなともの

北尾政美画





国立国会図書館 馬鹿邨水犬伝 2巻 208-545

ガラス使用



国立国会図書館 馬鹿邨水犬伝 2巻 208-545

ガラス使用

